
銀星の黙示録

MESHIA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀星の黙示録

【Nコード】

N05040

【作者名】

MESHIA

【あらすじ】

星が流れ落ちた

それは呪いの星、銀色の星

世界は一転し地獄と化す

そこで一人少女と星は出会う

（前書き）

装甲悪鬼村正の「The Call」を聞きながら読むのがベスト

一人の少女が運命と出会うことになる一ヶ月前……

海鳴市に一つの星が流れ落ちた。それを見た人は皆こう言った。

「歌が聞こえた……」

しかし落ちたはずの場所には何もなく。巨大なクレームができて
いるだけだった。

一人の少女が運命と出会うことになるひ……

世界が一転し、地獄と化した。

歌が聞こえる。綺麗な歌だ……。それなのに……。なんだか
悲しそうで、さみしそうで、まるで自分をうつすような……。そん
な歌。

みんなが狂っていく……。クルクルリクルクルリ。

家族も、友達も、知ってる人たちも、知らない人たちも、みんな
みんな狂っていく……。クルクルリクルクルリ。

それなのに私だけは狂わない。みんなみんな狂うのに、私だけは
狂わない。そう私は一人ぼっちなんだ。

みんな○し合ってるのり、私だけは○し合わない。

やっぱり私は一人ぼっち……。

町中が狂気で満ちているのに、私だけは違う。

やっぱり私は一人ぼっち……。

[illegible]

私はみんなに元に戻ってほしいなんて思わなかった……私も狂わせて、みんなと一緒に狂わせて……。そう願った。

私は悪い子だ。
・
・
・
・

気がつくとは私は森の中を歩いていた。少し歩くと『赤』い何かが転がっていた。フェレットの死体だ。そのフェレットは首に『赤』い石をつけていた。少しかわいそうだったから埋めてあげた。『赤』い石は貰っていった。私は悪い子なんだ。もういい子でいなくていいんだ。

また歩き始めた。すると森をぬけ、視界が広がった。

初めに目に入ってきた『色』は『赤』だ。
 炎の『赤』、血の『赤』、肉の『赤』、『赤』、『赤』、『赤』、『赤』
 いろんな『赤』が一面に広がっていた。

私はそれを綺麗だと思った。今まで見た何よりも……

次に目に入ってきた色は『銀』だ。この『赤』い世界にただ一点『銀』色の星が輝いている。私は見入った。

するとその星が近付いてきた。『銀』色の星は何も言わない。ただ私を見ているだけ・・・

不思議と恐怖はなかった。

ただ見ているとこの子も私と同じなんだ・・・そう感じた。別に顔が見えたわけではない、声を聞いたわけではない、ただそう感じただけ・・・

「あなたも一人ぼっちなんだね」

声が勝手に出ていた

「わたしもね、一人ぼっちなんだ。みんななくなっちゃった・・・」

・

私は笑っていた・・・

「ねえ、私も連れて行って、一人はさびしいよ」

それが終わり、そして始まり、日常が閉幕し、終焉が開幕した。

これは英雄の物語ではない

悪鬼の物語でも、悪魔の物語でもない

ただ『銀』色の星と一人の少女が世界を閉幕へと導く

そう、ただそれだけの物語。

T
H
E

E
N
D

（後書き）

いきなりですが全国のリリカルなのはファンの方々すみませんでした。

海鳴市のメンバーはなのは意外全滅です。はい全滅です。大事なことなので2回言いました。

というわけで書きました。異色のクロス、リリカルと村正なんてもう混ぜるな危険です。はいわかってます。

つづきを書くかは気分しだいです。大学に無事合格できたら考えます。

てかこれ自体学校で授業がだったから暇つぶしで書いたものです。

プロットも設定もストーリーもなんも考えていません。

はい石投げない・・・痛い痛いから！

というわけでこんな駄文をよんでくれてありがとう。

みんなの応援が俺に執筆意欲をわかせる（と思う）！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0504o/>

銀星の黙示録

2010年12月30日04時23分発行